

和町の実家に寄寓し、そこで高校卒業まで過ごしました。高校は経済的に町に出ることができない者のために、村に設置されていた比婆西高校(その後庄原格致高校と庄原実業高校に分離)・口南分校(その後口南分校となり、昭和五十五年廃校)・農業科(三回生)でした(農業科は四回生で廃止され、その卒業生は当初実業高同窓会、その後格致高同窓会と所属が変わり、現在でも両同窓会名簿に名前が載り、私は庄原実業高同窓会東京支部の副支部長まで務めています)。

当時の農業はもっぱら人手に頼り、私たちは農作業に明け暮れ、農繁期など勉強する暇はありませんでした。しかし、豊かな自然に恵まれた環境で、家族総出、あるいは田植えなど時には集落全体で共に汗して、働きつつ学ぶ生活を送れたのは、今となっては貴重な経験だったと思います。とくに当時のある夏の日だったか、広島大学理学部地学科の故今村外治教授が地下水調査で来村、分校に立ち寄り、分校長から授業は中止する、皆先生の後に付いて歩かせてもらうようにと指示が出ました。私の家の近くの小川の川底に露出する泥岩の中に、カキ殻が入っているのは魚を手掴みする時から知っていましたが、先生は「昔、海だったのですとやさしく説明してくださいました。実はこの時の出会いが後に私が広島大学で学ぶ契機となったのです」。

昭和二十九年三月、私は村での高校生活を終えました。母の実家の叔父に、村で母が祖父から相続した若干の山林・田畑をもとに農業がやれるか、あるいは別の道を選ぶべきか相談しました。選択は後者でした。私はその年新設された県立広島農業短大、中四国農事試験場などが対象の国家公務員試験初級職(農業)には合格しましたが辞退し、一旦大学で学んでから就職することを決意しました。この年は田舎の定時制高校卒業生には一般大学の門は厳しく、二、三校受験しましたが失敗、四月から広島市に出て仮就職し働きながら、当時国泰寺高校の英語の教師だった義叔父(寺本馨)の勧めで比婆西高校勤務(同校の補習科)を紹介され、一年間受験勉強をしました。

翌昭和三十年四月、私は広島大学理学部地学科に入学することができました。二年間の教養部を終え、いよいよ今村教授のおられる学部に進みました。野外調査を重視し、教授陣、院生の先輩、学部生の同輩などが共に学ぶという広大地学教室の学風は私の肌合っていました。三年生の進級論文では、津山盆地をちよと夏休みの暑い中を

調査し、大地の自然を対象に学べる喜びを実感しました。四年生の卒業論文は、興味と就職の可能性を考え、木野崎吉郎教授の鉱床学資源地質を選び、鳥取県根雨の後谷鉱山の研究を行いました。当時細々とですがまだ操業中で、経営者から論文完成後に報告書を提出することを条件に、調査時の旅費・宿泊費を負担してもらいました。

昭和三十三年四月、私は広島大学を卒業し、すぐ工業技術院地質調査所(現産業技術総合研究所)に一人だけ採用されるという幸運に恵まれました。以後前半は地質部で、主として日本各地の陸域地質図作成と研究に従事しました。また、昭和四十四年度科学技術庁留学試験に三十五歳にして最初に最後の機会に挑戦して合格し、昭和四十五年二月から一年間、米国ウツスホール海洋研究所に留学、海洋地質調査の研修と、海底マンガン団塊の研究を行いました。帰国後は新設の海洋地質部部門に移り、後半は海洋鉱物資源、海底地質の調査に従事しました。船で日本周辺大陸棚地域や、中部太平洋、南極海まで出かけ、研究対象が陸域から海底、地球規模にまで拡大しました。地質調査所でも多くの先輩、同輩、後輩の方たちと一緒に仕事ができ、とくにチームプレーが要求される船による何回もの調査航海を無事やり通せたことを感謝しています。

なお昭和五十年には母校広島大学より理学博士の学位を授与されました(日本の第三起層状マンガン鉱床の地質の研究)。その論文公開発表会の日、すでに十年前に退官され私大に移っておられた今村外治先生が来て下さり、会の後お祝いをして下さると珍しく広島市本通のレストランに招いていただきました。私はその席で、広大入試の時、学力不足の田舎出の者を拾い上げてくださったと思つていいますと申し上げたのです。先生は「そのようなことはありません、あなたは堂々と試験をパスし入学されたのです」と言ってくれました。仏様のような方でした。若い頃病弱だったが地質学の道に入り野山を歩いたお陰で健康になったと日頃から言っておられ、九十五歳で亡くなられました。先生を始めこれまで多くの師に恵まれた幸せを感謝せざるを得ません。

平成三年八月に私は五十七歳、定年前に民間の住友建設(現三井住友建設)に転職し、土木地質専門家/アドバイザーとして務めました。海底からまた陸域の地質に戻り、日本各地の現場を訪れ、国土の脆弱性を改めて実感すると共に、土木

技術者の方たちがそれを克服するため努力していることを知り、貴重な経験をすることができました。平成十七年五月末に同社を退職、平成十九年五月末には東京地学協会理事/副会長も任期を終え退任しました。

現在、視力がかかり衰え、公的な務めは尚志会茨城支部長のみにし、やや手を広げ過ぎた感があります。自分だけで行動できる家庭菜園の仕事に追われております。昔、口和町の田舎で農作業に明け暮れ、物質的には現在に較べると貧しいが、地域社会の連帯感と活気のあった生活を思い出すこの頃です。情報が溢れる一方、人々が孤立し、疎外感、不安感、閉塞感など精神的にはむしろ貧しくなった生活を送る現在、われわれが自然と共に生き、物質的なレベルを下けても、健康で精神的に豊かな生活をお互いに送れる社会システムを確立していく必要があると思います。私の専門分野の地質、地下資源の立場から言えば、現代文明を支えてきた石油も、いよいよ生産のピークを過ぎようとしていると言われ(ピークオイル)、金属資源も中国などの急激な消費増大により枯渇が懸念されています。地球環境問題も深刻です。待たなしたしの対応を迫られています。また、食糧危機が言われ始めた昨今、私が以前からささやかに行っているサツマイモのつる(葉と茎部分)と、芋の部分の完全利用実験?も現実性を帯びてきました。

さらに、先ごろ東京地学協会の講演会で、東大院教授で会員の丸山茂徳さんの「地球温暖化」

〇〇〇 出版案内 〇〇〇

この度、昭和二十六年卒の田中茂樹さん(昭和三十二年ボストンマラソン優勝者、現在全国マラソン連盟会長・理事長)が「マラソン日本を育てた勇者たち」を出版されました。本書は、マラソン会で活躍した勇者たちの足跡を追いそのドラマと、そして彼らの強く逞しいスピリットが今日のマラソン会の礎を築いたことを皆さんに伝え、記録に残しておきたい一心で書き下ろされたもので、店頭には並んでおりませんので御購読希望の方は積山(三十五年卒090-321316555)まで連絡下さい。一部六千円です。



酒井会計事務所

税理士 酒井久幸
(昭和25年卒)

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町
2-13-4
電話 (03) 3255-8995

洋光繊維株式会社

代表取締役
木村貞寧
(昭和25年卒)

〒130-0004 東京都墨田区本所4-9-10
電話 (03) 3623-3176

の真相」という話を聞き感銘を受けました。現在の温暖化二酸化炭素犯人説は誤りで、気候変動は太陽の活動度、地球磁場と宇宙線、火山噴火、地球の軌道、温暖化ガスの複合的な要因で起こり、温暖化ガスとしての二酸化炭素は量的にも少なく、温暖化効果は少ないというものです。そして地球環境問題の最重要課題は人口増加だと喝破し、早急に人工削減計画を立てよと警鐘を鳴らしています。政治と科学、世の中全体が温暖化で動いている時、今われわれが取り組むべき方向を示した、大変衝撃的で勇気ある提言と思います。地質学者でここまで言い切る丸山さんの力量に敬服しました(丸山茂徳「地球温暖化」論に騙されるな 講談社二〇〇八年、参照)。

思いつくまま述べ、冗長な文になりましたことご容赦下さい。

銀座の思い出と格致会

三十五年卒

積山 弘佳



略歴は文中に。現在、株式会社みつわ取締役企画室長

先日ある人からお誘いをいただきジャズクラブ「銀座シゲナス」に北山弥樹・悠路のコンサートを聴きに行つて来ました。古ぼけたビルの地下二階のジャズクラブでワイングラス片手にチーズを食べながらシャンソンを聞くのも久方振りでした。ふと四十数年前の事が甦ってきました。私は昭和三十五年春庄原高校を卒業と同時に生まれ故郷口和町永田を後に三次駅までバスに乗り芸備線で広島に出、大阪から夜行に乗り継いで早期東京駅に着きました。修学旅行で東京へは一度来たことはありましたが、まったく右も左も分からなかったことを懐かしく思い浮かべております。

東京へ出て来た往時は湯島天神のそばに住んでいました。銀座との最初の出会いは義理の姉に休みになると良く連れられジャズ喫茶へ行つたことでした。その頃は一九六〇年代のカバーポップス全盛時代でしたので平尾昌晃・山下啓次郎・飯田久彦の生の歌をACB、テネシー、美松、不二家ミュージック・サロン、日劇ウエスタ

ン・カーニバルなどで、カントリー&ウエスタン、ロカビリー、ロックを聞きに良く通つたものです。その後テレビの普及と共にこのようなお店も段々と消えて去つて終いました。しかし、うれしきことに現在も音楽を愛する人達が小さな店を構え歌手志望の若手を育てている所も数店あり今でも良く足を運んでおります。

我社は当時、上野の湯島に本社を構えておりましたが、東京オリピックが開催された昭和三十九年に、銀座のみゆき通りにありました喫茶店「白馬車」の跡地に本社ビルを建て同時に小売店「宝石専門店ミワ」を開業し移りました。私は当時伊勢志摩に居りましたが間もなく転勤になり東京に帰つて来ました。このとき以来、合田会長とは同じ会社の先輩・後輩としてお互いに銀座を仕事場として、現在まで移り変わる銀座とお付き合いをさせてもらつております。先輩と連れられて良く食べ、良く飲みに行きました。昔から続いている焼き鳥屋の「鳥繁、鳥長」おでんの「安幸、お多幸、力ビヤホール」では銀座ライオン「豚カツの銀座梅林」珍豚美人「ツバの「吉田」など長い年月を忘れさせてくれるお店が現在も残っております。料金は四十年前とほとんど変わっておりません。今では居酒屋も随分と多くなり気楽に飲めるようになりましたが、残念ながらこれらの店では良き時代の銀座の雰囲気を感じることができません。

銀座にもパレードや〇〇祭りや色々の行事もありましたが、消えるものも多くある中で、未だに残っている行事として毎年四月二十九日の緑の日に、フラワーカーペットをみゆき通りに敷く行事があります。私もこれまでに何回か娘や親戚の子供達を連れて来た事もありましたが、今年には孫を連れ泰明小学校の校庭で富山から運ばれて来たチューリップの花むしりをしました。娘から孫へと我が家も主役が変わりました。

銀座もバブル崩壊後は移り変わりも早く今では銀座も大きく様変わりをしています。つい最近までは銀座通も銀行や古い老舗が軒を並べていました。今では交詢社ビルも新しくなりチェーン店や海外のブランドショップがいたるところに店を構え、海外からの観光客も増え、中でも中国人の富裕層の人達が多く見受けられます。しかし表面的には随分と変わりましたが、一歩路地裏に足を踏み入るとまだまだ昔の銀座の面影を残している所も沢山あります。

昭和六十二年春、室伏先輩が銀座松坂屋で美術担当の部長をされておられた時、庄原の山岡先生

が銀座松坂屋の画廊で個展を開かれることになり、私の職場が近かつたこともありましたので呼びがかりました。室伏先輩も最後の個展を銀座の画廊でお世話出来たと大変喜んでおられました。山岡先生とは先生が口南小学校に勤務されていた頃、我が家に下宿されていたご縁で良く知っております。

家内も受付のお手伝いをさせていただき、当時の様子を思い出しております。山岡先生を囲んで二十五年卒業の先輩の方々と一週間良く食べ、良く飲ませていただきました。この時東京格致会の存在を知りました。

この様なことがきっかけで東京格致会に入ることになりました。新橋にありました「岡山の旧制第六高等学校」のOBの集まる場所が細川元会長を中心におでんをつつきながら、学校の校名も「格致中学」「格致高等学校」と移り変わりましたが「格致中学」「庄原格致高等学校」と移り変わりましたが「格致」の二文字で一体となり、会運営の件、総会、役員改選、新聞作り、会員名簿の更新など皆さんが熱き議論をされておりました。私は一番若く、片隅で耳を傾けて、ただただ聞くだけでした。遠く離れた郷土への思いと格致の由来を熱く語られており、東京での活動に皆さん真剣に取り組んでおられました。

その時から二十数年の歳月は経過しましたが先輩の意思をしっかり受け継ぎ東京庄原格致会を後輩の人達に残して行くのが我々の使命と心得てこれから皆さんと一緒に会の運営に携わって行きたいと思っております。

後期高齢者医療制度と

共通一次大学入試制度について

三十七年卒

天野 皓 昭



【略歴】

庄原本町生まれ。昭和四十四年信州大学医学部卒業後、十年間病院勤務。その後、横浜私立大学医学部教員を経て、平成十三年からアフリカにJICA専門家として五年間赴任。現在横浜市内の老人保健施設施設長。

私は現在、老人介護施設(通称、老健)の施設長

株式会社 龍 寿司

代表取締役 椎名 喜多子
(旧姓 室伏) (昭和31年卒)

東京都中央卸売市場内・1号館

TEL/FAX 03-3541-9517 営業時間/午前6:30~午後2:00
TEL 03-3547-6894

(予約はお受けしていません。日曜・休日等市場が休みの日は休業致します。)

西葛西・井上眼科病院

東京女子医大名誉教授

院長 宮 永 嘉 隆 (昭和28年卒)
医学博士

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西5-4-9

TEL 03-5605-2100 (代)

をしております。これから老人社会を迎えるに当たり、私たちが避けて通れない老人医療について、現場の実情を踏まえながら、私見も含めて述べてみたいと思います。

現在、入所者の多くは75歳以上ですから、今回施行された後期高齢者医療制度に強い関心を持っておりました。実際、医療現場での主な問題点は、①75歳以上の高齢者が、現行の医療保険制度から切り離し、医療内容に格差を生じる危険性がある。②年金台帳の不備が解決される前に、年金から天引きを開始した。③今までは、被扶養者として家族と同一の保険制度に加入していたのに、一方的に分離し新保険制度に組み込まれた。④結果的に、保険料負担が増加し、今後も引き続き増額される可能性がある。などです。

今、国会では野党がこの制度の廃止を求めて法案を提出しており、また、与党も何らかの見直しを検討していることから、今後修正される可能性がありますが、私自身はこの制度がそのまま継続されることには疑問を感じざるを得ません。

最近、医療費削減のため、矢継ぎ早に医療保険制度が変更されております。一連の流れの中で、気になる点が幾つかあります。それは、医師(医療機関)と患者及びその家族との信頼関係すら点数化し、等級化(格差化)しようとする傾向です。もとより、医療は医師と患者の信頼関係を前提に成り立っており、その関係の下で医療行為(診察、検査、治療)があると思います。しかし、現実の方向は必ずしもそうではないような気がします。

例えば、脳卒中などの後遺症で半身不随となった場合、リハビリ訓練を実施します。勿論、平均的な回復度を予測することは可能ですが、その効果は画一的ではありません。しかし、発症後120日でリハビリは打ち切りとなります。この問題は、新聞などでも取り上げられ、厚労省も医師からの延長を求める理由書があれば延長も可能とのことですが、殆ど打ち切られているのが現状です。

本年4月より、病院毎に、リハビリによる回復度の評価が実施され、評価が低い場合は、その病院へのリハビリ料金を減額されることが決まりました。極め付きが、後期高齢者医療制度の中の終末医療(ご)のように死ぬか)に関する項目です。本人・家族から同意書(端的に言えば、特別の治療を行わない)があるものには、その相談料の加算を病院に認めることになりました。

これら一連の流れを見て感じることは、平均化された数値に依存する成果主義、ごほうび主義、

ロセスを抜きにした結果主義がベースになっていくと思わざるを得ないのです。

現在、担当省庁で中心的に活躍している人たちの多くは、共通一次大学入試制度で、偏差値教育のはしりを経験した人たちです。つまり、偏差値で大学・学部を選択し、勉強方法もマニュアル化された受験対策と記憶中心の学習が中心でした。有名校に入るための塾通い、運良く合格できて、ごほうびにありつける子供時代ではなかったのかと思われなりません。

最近、医師の偏在が問題にされていますが、地方大学医学部への入学者は、首都圏を中心とした都市出身者が圧倒的に多いのが現実です。首都圏のある進学校からは、全国の医学部に毎年80人以上も入学しています(一つの大学医学部の平均的な定数以上に匹敵)。しかしながら、卒業後、彼らの多くは出身地の都会に帰るのを希望するため、医師不足による地方の医療崩壊が起きているのは当然といえるのではないのでしょうか。

今から40年以上前の、私が高校生時代の時代、それぞれの大学は自ら入試問題を作成し、試験方法にも大学の個性がありました(当然ながら、今に比べると出題ミスや採点ミスも多かったかも知れませんが)。ですから、色々な可能性を秘めた学生が入学できるチャンスがありました。この様なバラエティーに富んだ学生が入学し得る可能性を、大学共通一次試験制度が失われたのではないかと、崩壊が懸念される日本の医療制度再生のためには、現在の大学入試制度の抜本的な改革が不可欠と痛感する次第です。(6月記)

『格物致知』との出会い

昭和四十年卒
田中文男



【略歴】
板橋町出身、四十五年大学建築学科卒業後、鳥居建設(株)入社。J.Rの駅舎・つくば学園センタービル・中山競馬場・超高層住宅建設等に従事。現在、木原建設(株)に勤務。

私が偶然の『格物致知』に出会ったのは、私自身が旅行好きだったからでしょう。

私の卒業した板橋小学校の卒業アルバムには何時の年次の卒業写真にも「三宮金次郎」の銅像

を背景とした先生と生徒が写っています。

彼が薪を背負い、片手に何かの本を持ち読んでいる。今の人達には殆んど何の本か知っている人はいないそうです。実は「大学」という本なのです。昔の我々のお祖父さん、お祖母さん達は皆知っていたと聞いています。

この『大学』は四書五経の儒教の入門書で、その中に『格物致知』があります。

この『格物致知』に最初に出会った偶然とは、平成六年私が四国支店に勤務してから、旧友のMさんと松山道後温泉駅で待合せていた時のことです。後を振り返ると松山市立子規記念博物館の前の畳二枚程度の石碑に『格物致知』松山市長中村時雄と大きく刻まれているではないですか。「エー!!」と先ず驚きました。「中村市長は我が格致高校の先輩なのだ!!」とまた驚きました。Mさんも「永年住んでいて気が付かなかった」とお互いに驚き合いました。



松山市・格物致知石碑

後で分かったことですが、中村市長は元々有名な方で、格致高校とは御縁がなく以前から『格物致知』のこの言葉を好まれていたそうです。

また、この子規記念博物館の館長には我が格致中学校卒業生(昭和十八年卒)の長谷川孝士先生が平成八年から六年間館長をされていた事を先生と同級生の伊達正治同窓会長から聞き驚きました。このことを兼利(前)会長にお話したところ、後日、松山道後に見学に行かれたそうです(ご足労をおかけしました)。

皆様も松山道後温泉に行かれた際には是非この『格物致知』の石碑と子規記念博物館にはお立ち寄り下さい。

二つ目の偶然の出会いには、平成七年中国を旅行中、西安東郊外で有名な華清池・秦の始皇帝陵・兵馬俑坑を見学した翌日、市内観光で西安碑林博物館を訪れました。碑林とは昔の文字や画像を刻んだ多数の石碑を集めた博物館でした。

その石碑の中に儒教の経典『大学』の『格物致知』が刻まれた石碑が有るという事を当日聞き

どんな小さな工事・修理でも、お気軽にご相談ください

ガーデン&エクステリア

0120-454295 お気軽にどうぞ



株式会社 八王子装建

代表取締役 西谷光徳(昭和46年卒)

諸官庁工事指定店 10年保証 お見積り無料 迅速対応

八王子市子安町1-32-19 TEL 0426(45)4295 FAX 0426(44)8549

宝石専門店

JEWELRY

miwa

東京都中央区銀座6-7-2

TEL. (03) 3572-5011

http://www.miwa.com

また。元々この碑林を訪れることを知っていた訳ではなかったのですが、折角はるる来たのですから広い広い館内を独り探り回りました。

「ありました」「有りました」
「格物致知」という文字が展示室の石碑に刻み付けられていました。異国の地で見付けたのです。一人悦びに浸りました。

あれから十数年経ちましたが今でもあの感激は忘れられません。実際にこれが古代の『大学』の書の中の『格物致知』なのか私には今でも確証できません。

インターネットで「格物致知」と検索すると京都市の中心部、下京区四条通りと堀川通りとの間に「格致小学校」が以前ありました。明治二年、日本最初の小学校として開校したそうです。今は統合されて閉校となっていますが、その学区は「格致学区」としてそのまま残っています。この「格致学区」から俳優の藤田まことさん、千原しのぶさん、元グループサウンズ・タイガースの大野克夫さん等多数の有名人が出られたとのこと。

私が以前、山の手線の電車の中で「致知」の名の付いた本をお持ちの御婦人をお見かけしました。またまた驚きました。後で調べたら「致知出版社」でした。本の内容は何か難しそうな人間学を学ぶ月刊誌でした。

ついでですが広島市内に「合法格物致知山・永徳寺観音院」を見付けました。
我々「庄原格致高校同窓会」出身者だけが「格物致知」に縁があるのだと勘違いしていました。世間には一杯「格物致知」の仲間がおられることを知り心強く感じました。

郷土だより

雑記 (思いつくままに)

三十四年卒 竹本 健 三二

こんにちは、前回の会報で庄原市庁舎新築の記事を紹介しましたが、続報をお知らせします。四月から工事が始まり、現在は地下部分の基礎工事が完了し、一階部分の基礎工事が行われています。

まだ一階以上の柱等の鉄筋は組み上げられていません。いづれにしても、原油価格の高騰によって諸々の商品価格が日々値上げされており、建築資材へのはねかえりがとても心配です。市内の二つの業者がジョイントして取組んでいるだけに一層気がかりになります。私一人だけの心配に終われば良いのですが――。

次に、備北丘陵公園の近況等です。四月中旬に北入口がオープンしました。場所は国道一八三号線と四三二号線が分岐する戸郷町と上原町の境です。旧広島県農業技術大学の建っていた真裏になります。ショッピングセンター・ジョイフルの側から行くには、ジョイフルの横の国道四三二号線を南下して最初の交通信号のついた交差点をそのまま直進すれば入口のゲートを入ります。この入口から南西へ進めば、元庄原実業高校の梨園が残されており、入園者に利用されるようになるとか、又お国さん・兼さんの祭つてある社が残されており、若き青春時代の国兼池湖畔の諸々が浮かんでくるのではないのでしょうか。さらに、入園ゲートを中国高速自動車道路から直接入ることができるETCのゲートを新設してはどうでしょうか。現在、既存の道路からは大きな催しの場合大きな渋滞が起きておりましたのでこれが解消されるのではないかと考えられます。この高速道路からの直接入園する方式の考えは随分前に国会議員の方から発言されたことがあります。実現すると大変便利になると考えられます。

次は、庄原市からオリンピック選手の誕生のことです。この選手は市内・山内町出身の東海大学二年生の金藤(カネトウ) 理絵さんです。名前をみて、思い当たることはありませんか。そうなんです。私たちが高校生の頃、庄原高校に在籍されていた養護教諭の金藤節子先生のお孫さんになります。理絵さんのお父さん宏明さんは、現在三次高校の体育教諭をされています。私も彼女がまだ小学生の頃、上野公園内にある勤労者プール(当時)にお父さんと一緒に来て、父親のスパルタ指導の下で熱



新庁舎工事現場 (6月末)

心に泳いでいたのを思い出します。この「郷土だより」をご覧いただく頃には北京オリンピックは終わっていますが、金藤選手の活躍を願ってこの便りを書いておきます。

ちなみにこれまでのオリンピックへ出場した庄原市出身の選手は、植平勇壮さん(マキシコ・ミュンヘン大会、近代五種競技)、友永義治さん(ミュンヘン大会、陸上男子400m)、竹内 章さん(ミュンヘン大会、陸上男子3000m)の三人です。
理絵さんは水泳の女子2000m平泳ぎに出場予定です。現在市内では懸垂幕や横断幕が多く、事業所等に掲げられたり、備北交通のバスも写真入りの横断幕を取り付けて走っており、多くの市民の応援が盛り上がっています。(七月初旬 記)

同好会だより

「ゴルフ同好会」第三十八回コンペ

梅雨の合い間の好天の中で競う！
H・Cに恵まれた不真面目な優勝者

三十五年卒 八谷 英 樹

梅雨入り直後の六月一日、埼玉県吉見ゴルフ場に四組 二十人のプレイヤーが集いました。前日までの雨が嘘のような好天に恵まれた中、今回からH・C制を取り入れての戦いとなりました。吉見ゴルフ場は二度目の会場となりますが遠路、茅ヶ崎・藤沢から明賀さん・増山さんにも参戦いただきました。最年長者は二十五年卒の室伏孝一さん。

私はここ数年、一年間に五、六回程度しか本番プレーをしない状況でその上本番が練習場という不真面目なプレイヤーですから、優勝などは夢想だにしていませぬでした。終つて「お前が優勝だ」と聞いたときにはただただ驚きだけでした(と同時に、次回、幹事はシヨック)。

ここしばらくは一〇八の除夜の鐘をクリアできずにいたわけですから自分にとつて今回の成績は確かに良かったのですが、その理由はこれまで数ホールはある大たたきが今回は少なかつたことにつきます。無欲に肩の力を抜いて

創業30年



二階堂調剤薬局グループ

二階堂調剤薬局 大山調剤薬局
ま え の 薬 局 グリーンファーマシー

代表取締役 薬剤師

石井 美佐子

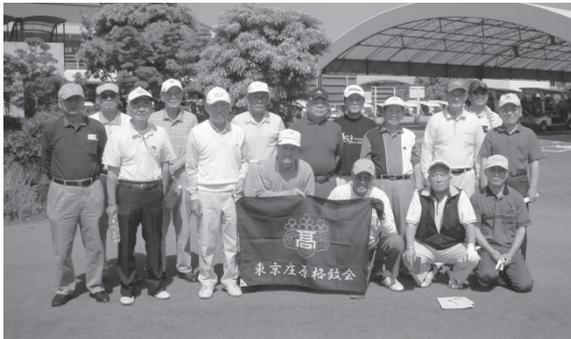
(旧姓 瀧口) (昭和48年卒)

東京都板橋区南常盤台 1-30-21

TEL 03-3958-9955

専心出来た(?)ことが良かったのか!。しかし、いずれにしてもハンデいのなせる業!

私がクラブを最初に握ったのは二十代後半でした。三十数年の時を経て、最初の頃は、最初の頃は仕事の間から九月から翌春まではとてもクラブに触れる余裕はなく、プレイできるのは年間せいぜい数ヶ月の間でした。その時期に多少の練習をしても翌シーズンの始めには元に戻るか下がっている状態でした。こういう生活を二十数年続けた後、出向して時間の余裕が出来た時、あるレッスンプロを囲む会に参加して五回程真面目に練習に励んだでしょうか! お陰で「明治の大砲」スタイルが多少は改善されたのでは思っております。その頃はまれに九十を切ることもあったのですが、その会を離れてからは元の木阿弥です。前号に投稿されている亀井さんほどにはとても出来ないまでもいまま少し真面目に練習に励み、今回の名誉を汚さないように頑張らねばと思っております。



来春のコンペでは、第四十回目となることを記念して、積山さん(現副会長)から寄贈いただいた銀製カップの取切り戦を行うことになりました。H・Cがない初参加者は資格を失いますので、次回の十一月中旬開催予定の第三十九回コンペには是非参加いただき、H・Cの確保をしてください。

優勝	八谷 英樹(35年卒)	105
準優勝	合田 良三(33年卒)	102
3位	生田八洲紘(33年卒)	97
ベストグロ(第7位)		71

亀井 勲三(35年卒) 86 9 77
今回の第三十九回コンペは、十一月十三日(木)に開催致します。会場は富貴ゴルフクラブ(埼玉県比企郡吉見町・東武東上線東松山駅から十分を予定して準備を進めております。これまでに参加いただいた方には確定次第ご案内申し上げますので友人・知人に声掛けあつてご参加下さい。また、これまで参加経験のない方で今回参加ご希望の方は次の事務局若しくは幹事までご連絡下さい。初心の方、大歓迎です。

【バス旅行同好会】 第六回日帰りバス旅行会報告

三十二年卒 森 沢 進
(バス旅行会幹事)

四月の最後の日曜日、大型連休前半戦のスタートとなる二十七日早朝八時前に、二十人の仲間が東京駅丸の内南口、例年通りのスタート地点に集まりました。今回は四組のご夫妻の参加がいただけました。

年一回開催のこの旅行会も今回で六回目を迎えることになり、これまでに中央道・東北道・常磐道と一巡して来、今回は初回の思い出の地、伊豆方面へのスタートとなりました。定刻八時に東名高速道路経由で沼津インターに向き出発しましたが、懸念した渋滞に遭遇することもなく十時前にはインターを通過し、第一回の旅行の時に入浴・食事をした修善寺を過ぎ、一路今回の目的地である



る西伊豆・土肥温泉に向かいました。丁度十二時に目的地に着きましたが、とりあえず座席からの開放感に浸ろうということになり、近くの黄金崎の素晴らしい景観を眺め、春霞の中に浮かぶ富士山をかすかに目に留めたりと食事の一時を楽しみました。西伊豆ホテルニュー岡部の宴会場に入り、ビールで乾杯の後お酒を追加する人、お腹を満たした後入浴して疲れを癒す人等三々五々の一時を過ぎました。帰途は車中のカラオケに興じ、各自、自慢のものを存分に発揮していました(当会は「歌の好きな人だけが歌う」「無理強いほしくない」を motto にしています)。

帰りもさほどの渋滞に巻き込まれることもなく二十時前には東京駅前に帰着、今回の再会を楽しみに散会しました。今回の目的地は各位のご希望を広く求めて決めたいと考えておりますので沢山のご意見をお寄せ下さい。

【囲碁同好会】

はるか庄原をまぶたに

「格致カッパ争奪戦」に参加し観戦する
三十四年卒 森 岡 洋 三
(旧姓原田)

去る六月八日(日)、東京庄原格致会囲碁同好会の月例会があるということで、会場である新宿三丁目の囲碁サロン「喜楽」という碁会所を訪れました。毎月第二日曜日十一時半集合で各自四局位(総当たり戦)対局し、半年毎の大会で、予選通過者によって決勝トーナメント(六月・十二月)を行い優勝者を決めるルールになっていました。丁度観戦日は、平成二十年度上期の優勝者を決める日で、決勝トーナメント戦が行われており、活気に満ちてさながら「本因坊戦」の観があり、貸切の小部屋が熱気でムンムンしておりました。同好会員は十八人で女性会員もおられてなかなかの盛況です。年齢は四十代から八十代までバラエティに富んだ分布とのこと。老いては「碁」に従え「何歳になっても若い人、同年配の人、分けへだてなく勝ち負けと云う厳しい戦いをして、碁から元気をもらおう姿はうらやましく思いました。各局とも、さながらイ・チャンボ(韓国の棋士



ふるさとの近景 三門市通り



庄原さくら温泉

かんぽの郷 庄原

〒727-0004 広島県庄原市新庄町281-1

TEL.0824-73-1800 FAX.0824-73-0100

<委託運営会社> 株式会社サンヒルズ庄原

代表取締役 和泉雅夫
(昭和34年卒)

